

小平市を取り巻く状況について

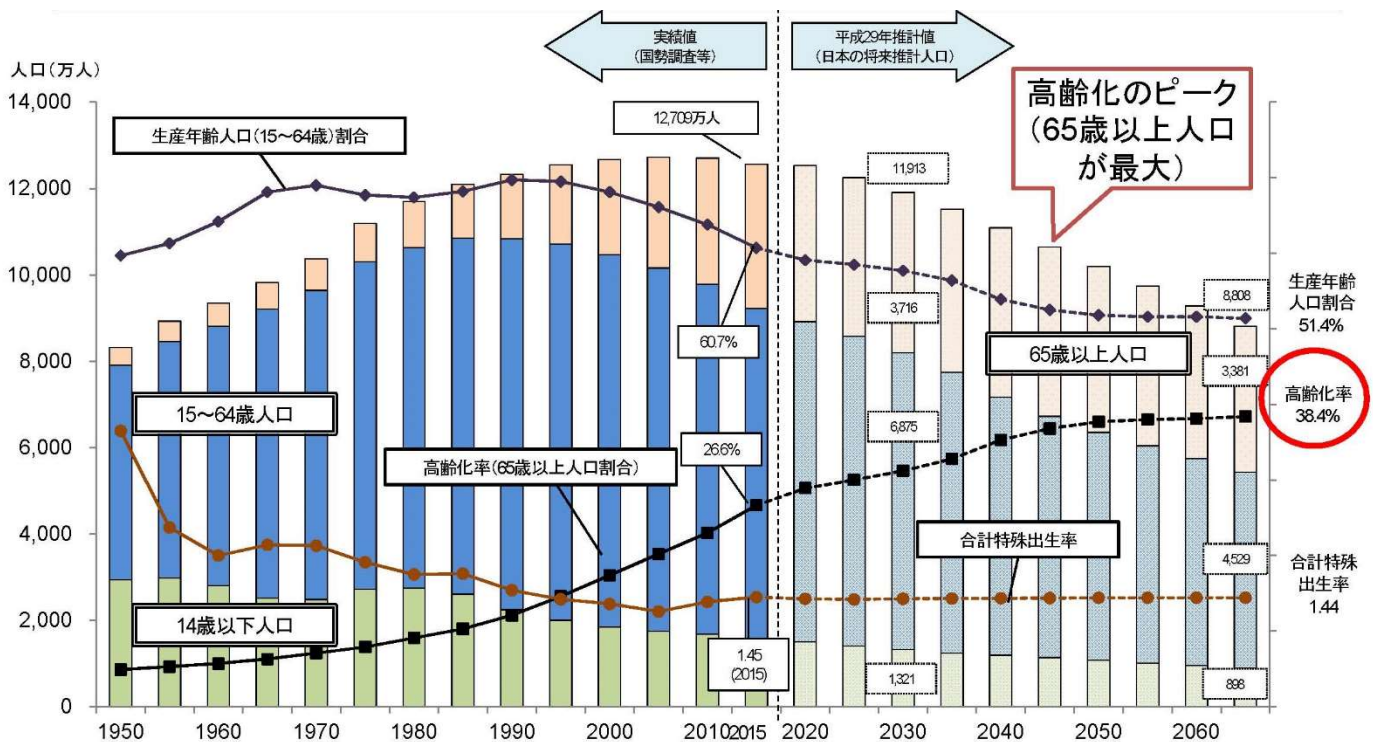
1 人口推計

(1) 人口減少、人口構成の変化

わが国の総人口は、戦後増加を続けていましたが、平成 20 (2008) 年の 1 億 2,808 万人をピークに減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（出生中位（死亡中位）推計）によると、総人口は令和 47 (2065) 年には約 8,808 万人にまで減少することが予測されています。

また、わが国では少子高齢化の進行が著しく、平成 27 (2015) 年国勢調査では年少人口（0～14 歳人口）が 12.5%、生産年齢人口（15～64 歳人口）が 60.8%、老年人口（65 歳以上人口）が 26.6%となっています。この少子高齢化の傾向は今後も続き、令和 47 (2065) 年には、年少人口が 10.2%、生産年齢人口が 51.4%、老年人口が 38.4%になるものと推計されています。

■日本の人口推計

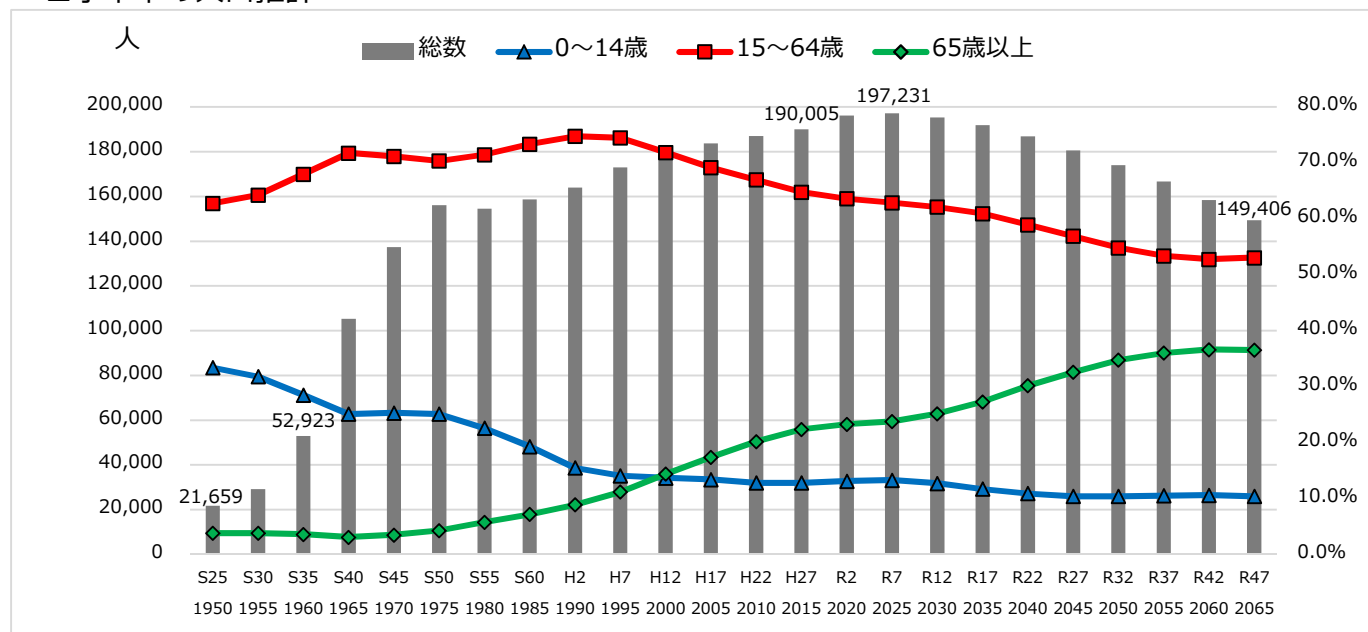


資料：第1回社会保障審議会年金部会 年金財政における経済前提に関する専門委員会

（２） 小平市の人口推計

こうした傾向は小平市も同様に、総人口は令和 7（2025）年をピークに減少に転じ、市制施行 100 周年を迎える 2060 年代には、14 万人台になると推計されています。

■小平市の人口推計

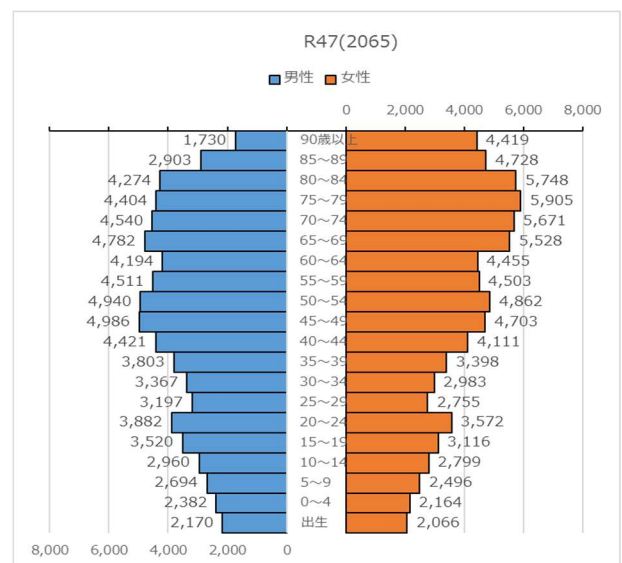
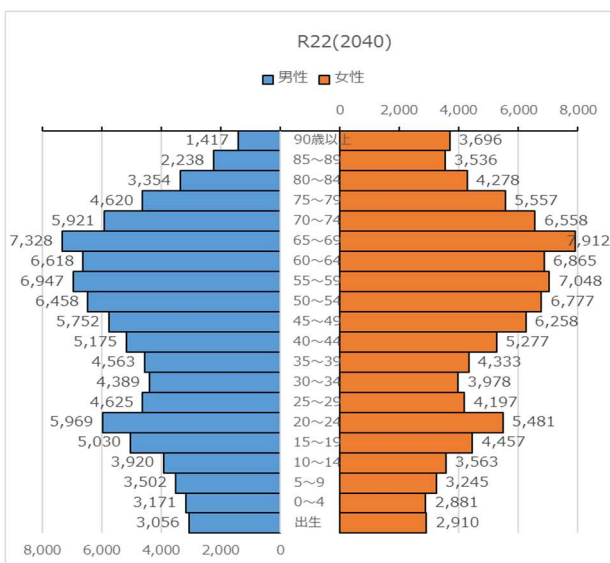
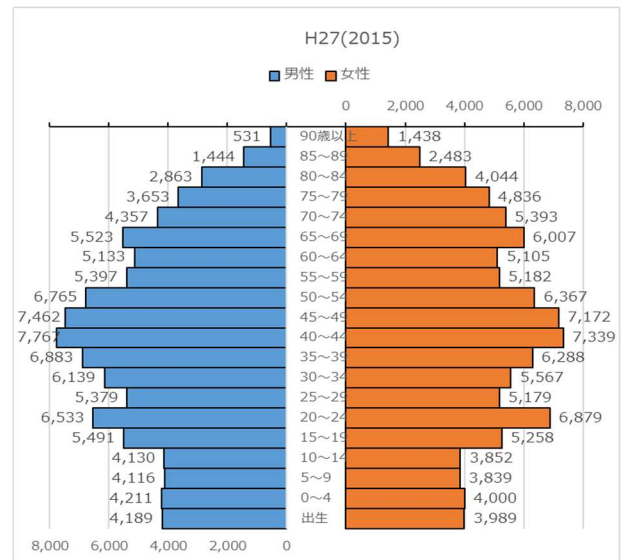
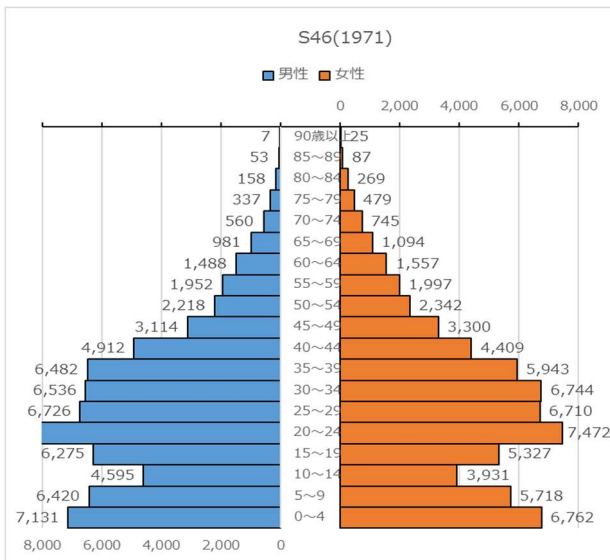


資料：国勢調査、小平市人口推計報告書補足版（令和元年 8 月）

(3) 小平市の人口構成の変化

人口構成も大きく変わることが推計されています。小平市の人口構成の変化を示すグラフを見ると、第2次ベビーブーム期（昭和 46（1971）年～昭和 49（1974）年）の昭和 46（1971）年では、底辺が広い三角形をしています。第2次ベビーブーム世代が70歳を超える令和 22（2040）年には、重心が上方にきています。令和 47（2065）年には全体的に細くなっていくことが示されてます。

■小平市の人口構成の変化

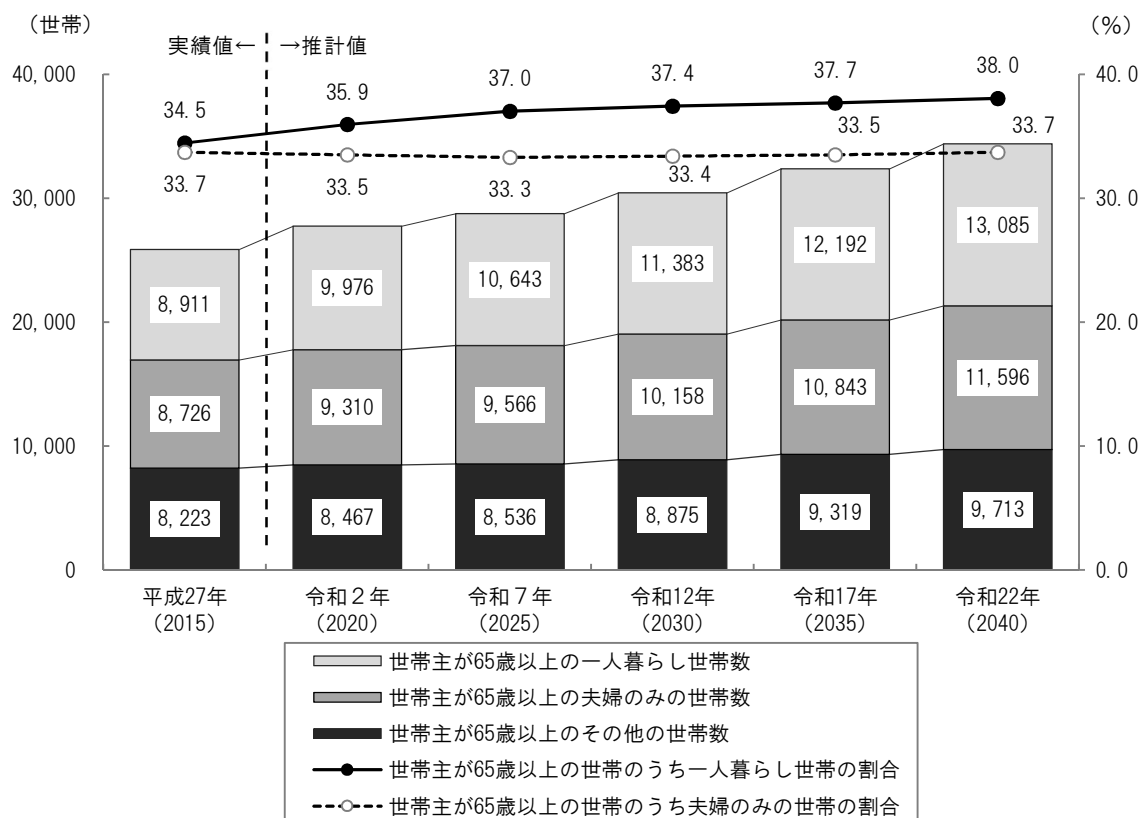


2 高齢者の状況

(1) 高齢者世帯の推移と推計

世帯主が65歳以上の世帯は増加傾向にあり、今後も増加し続けていくことが予想されます。なかでも一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦のみの世帯の増加が大きく、令和7（2025）年には65歳以上の方がいる世帯のうち7割を超えると推計されます。

高齢者世帯の推移と推計（各年10月1日現在）



	実績	推計				
	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
世帯主が 65 歳以上の 一般世帯※	25,860	27,753	28,745	30,416	32,354	34,394
世帯主が 65 歳以上の 一人暮らし世帯	8,911	9,976	10,643	11,383	12,192	13,085
割合 (%)	34.5	35.9%	37.0%	37.4%	37.7%	38.0%
世帯主が 65 歳以上の 夫婦のみの世帯	8,726	9,310	9,566	10,158	10,843	11,596
割合 (%)	33.7%	33.5%	33.3%	33.4%	33.5%	33.7%
世帯主が 65 歳以上の その他の世帯	8,223	8,467	8,536	8,875	9,319	9,713

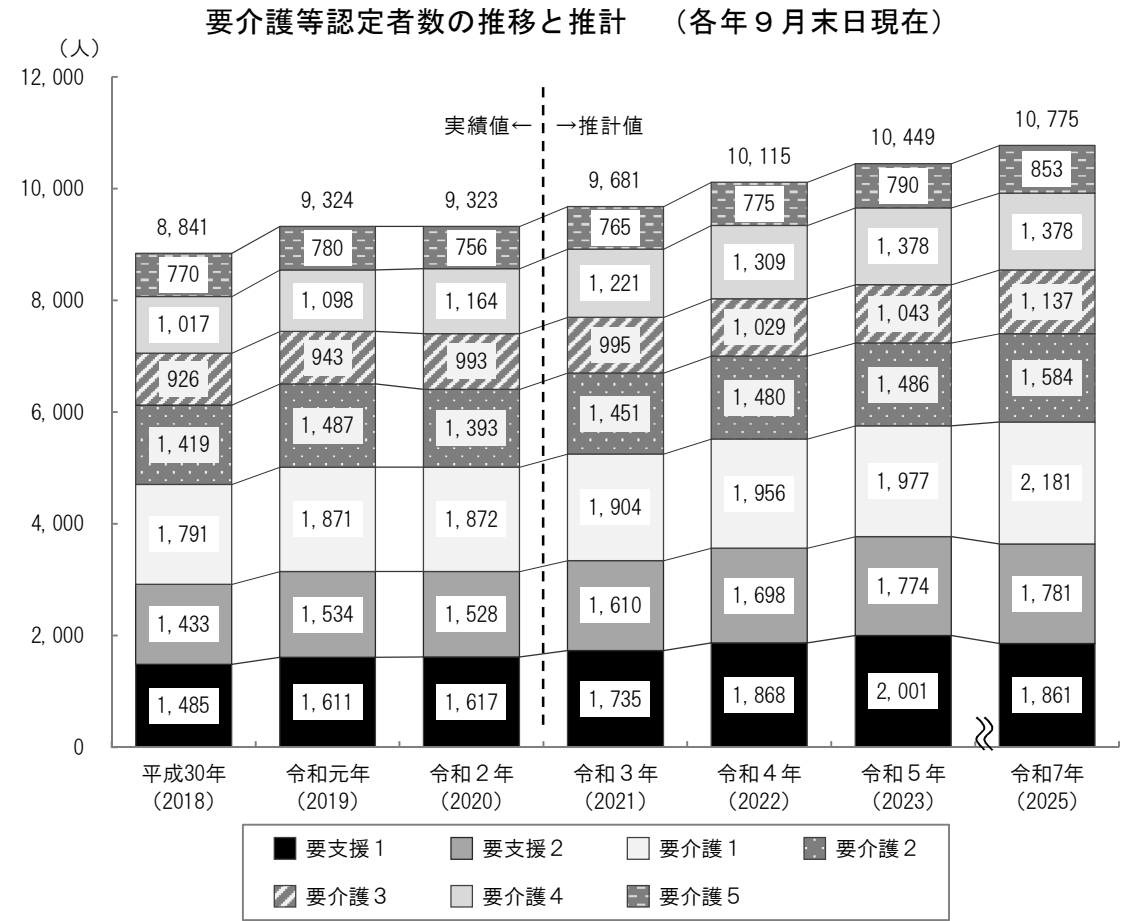
資料：東京都世帯数の予測（平成31年3月）

※平成27年国勢調査結果等に基づいた推計。

※「一般世帯」とは、「施設等の世帯」（病院・療養所、老人ホームなどの社会施設等）以外の世帯。

(2) 要介護等認定者数の推移と推計

要介護等認定者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和7（2025）年には10,775 人になると推計されます。



	実績			推計			
	平成 30 年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和7年 (2025)
要支援1	1,485	1,611	1,617	1,735	1,868	2,001	1,861
要支援2	1,433	1,534	1,528	1,610	1,698	1,774	1,781
要介護1	1,791	1,871	1,872	1,904	1,956	1,977	2,181
要介護2	1,419	1,487	1,393	1,451	1,480	1,486	1,584
要介護3	926	943	993	995	1,029	1,043	1,137
要介護4	1,017	1,098	1,164	1,221	1,309	1,378	1,378
要介護5	770	780	756	765	775	790	853
計	8,841	9,324	9,323	9,681	10,115	10,449	10,775

資料：小平市高齢者支援課推計

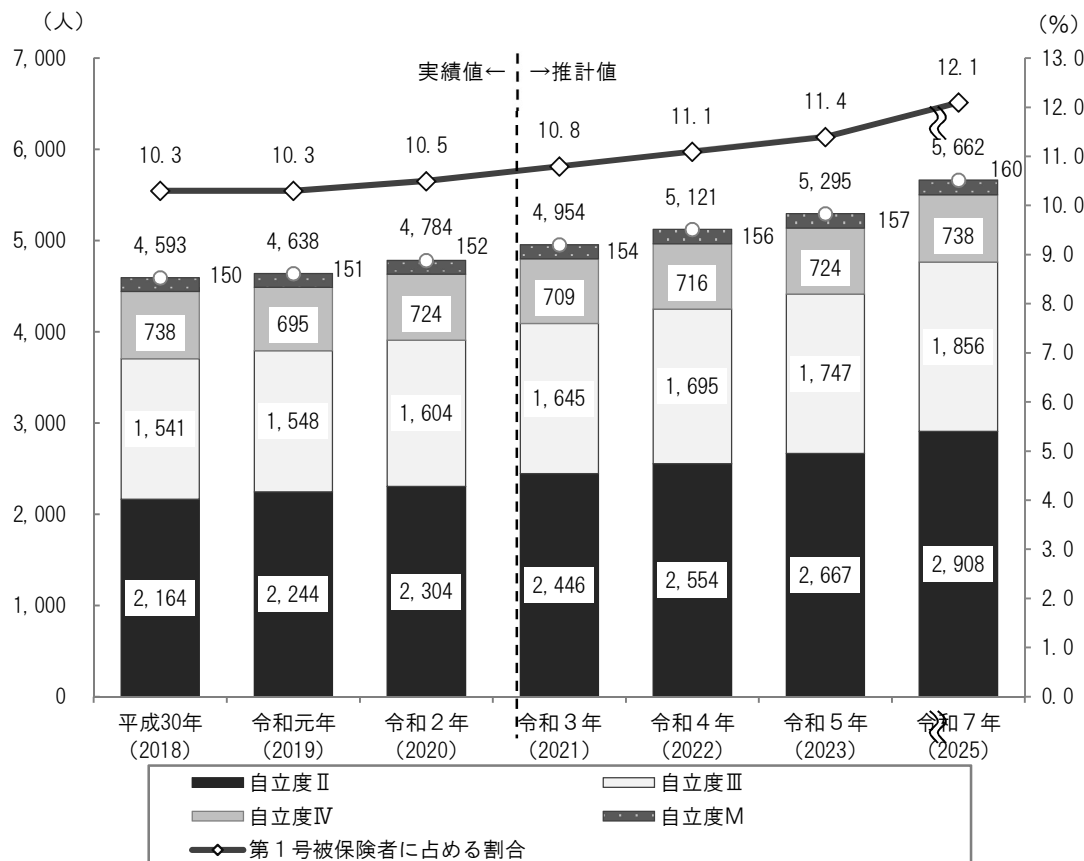
※第2号被保険者を含む。

(3) 認知症高齢者数の推移と推計

認知症高齢者数は今後増加するものと見込まれており、令和7（2025）年には5,662人になると推計されます。第1号被保険者に占める認知症高齢者の割合も今後上昇するものと見込まれており、令和7（2025）年には12.1%になると推計されます。

また、令和2年9月末日現在、認知症高齢者の63.5%は在宅で生活をしています。

認知症高齢者数と第1号被保険者に占める認知症高齢者の割合の推移と推計（各年9月末日現在）



	実績			推計			
	平成 30 年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和7年 (2025)
自立度Ⅱ(人)	2,164	2,244	2,304	2,446	2,554	2,667	2,908
自立度Ⅲ(人)	1,541	1,548	1,604	1,645	1,695	1,747	1,856
自立度Ⅳ(人)	738	695	724	709	716	724	738
自立度Ⅴ(人)	150	151	152	154	156	157	160
合計(人)	4,593	4,638	4,784	4,954	5,121	5,295	5,662
第1号被保険者 に占める割合 (%)	10.3	10.3	10.5	10.8	11.1	11.4	12.1

資料：小平市高齢者支援課推計

※認知症高齢者：要介護認定調査における日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者

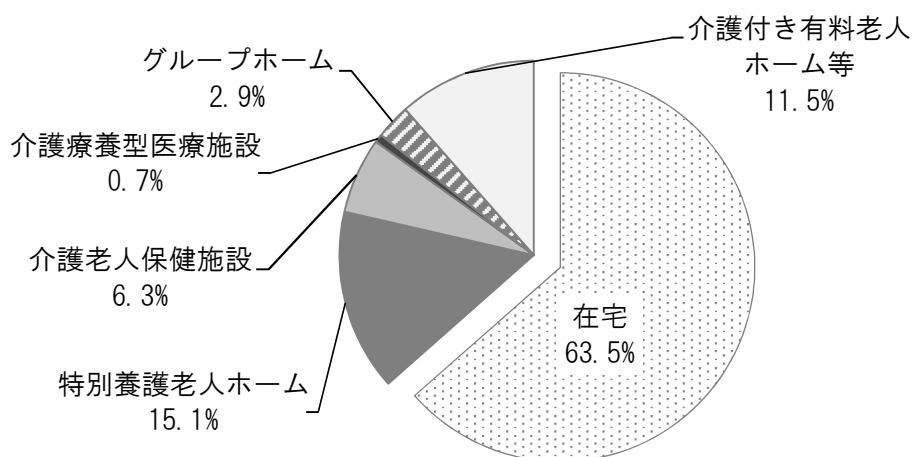
《参考》認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内で上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他傷等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

資料：「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について

(平成 18 年 4 月 3 日老発 0403003 号)

認知症高齢者の在宅割合 (令和 2 年 9 月末日現在)



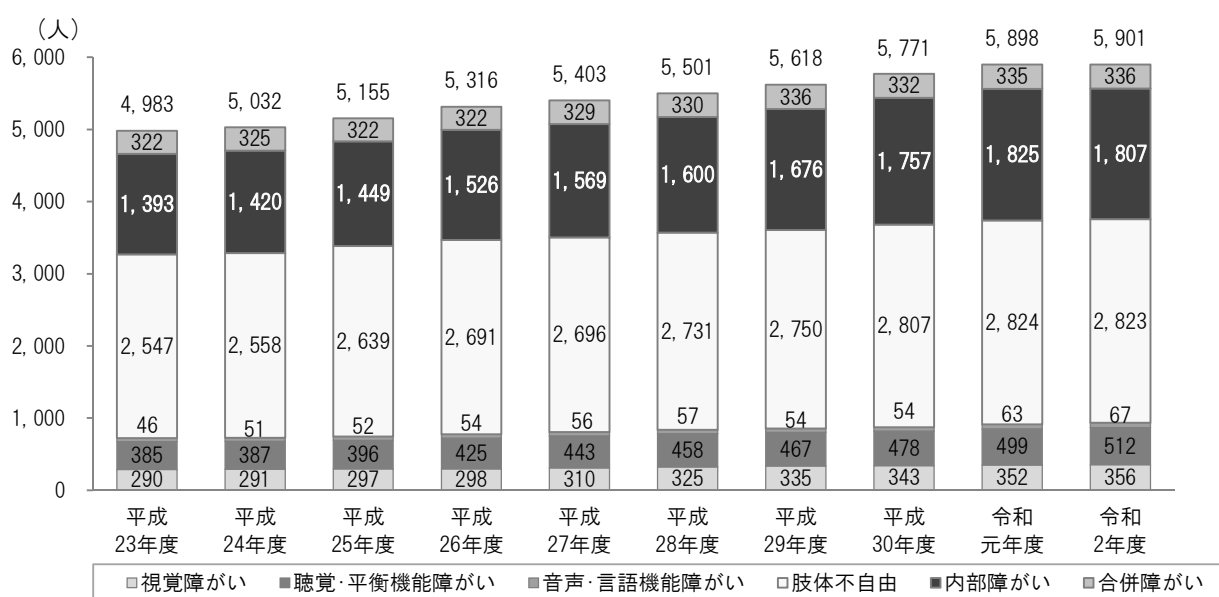
※在宅には入院中の人数を含む

資料：小平市高齢者支援課作成

3 障がいのある人の状況

(1) 身体障がい者の状況

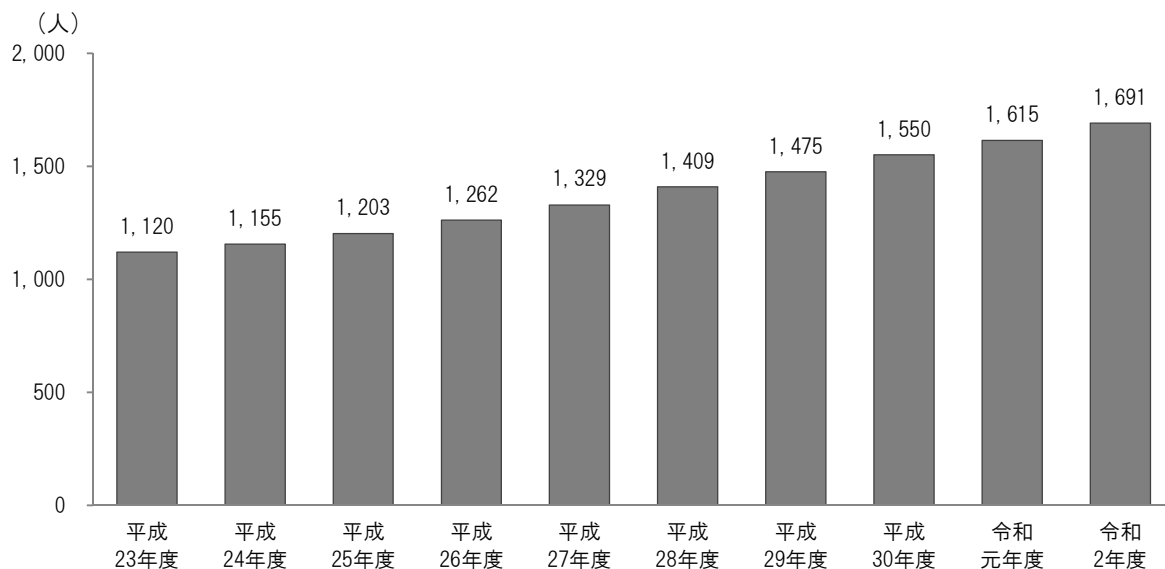
小平市の身体障害者手帳の所持者数は、平成23（2011）年度に4,983人であったのが、令和2（2020）年度には5,901人となり、約1.18倍の伸びを示しています。障がい別では、「聴覚・平衡機能障がい」が約1.33倍、「音声言語・言語機能障がい」が約1.46倍、「内部障がい」が約1.30倍となっています。



資料：障がい者支援課 ※各年度3月31日現在

（２）知的障がい者の状況

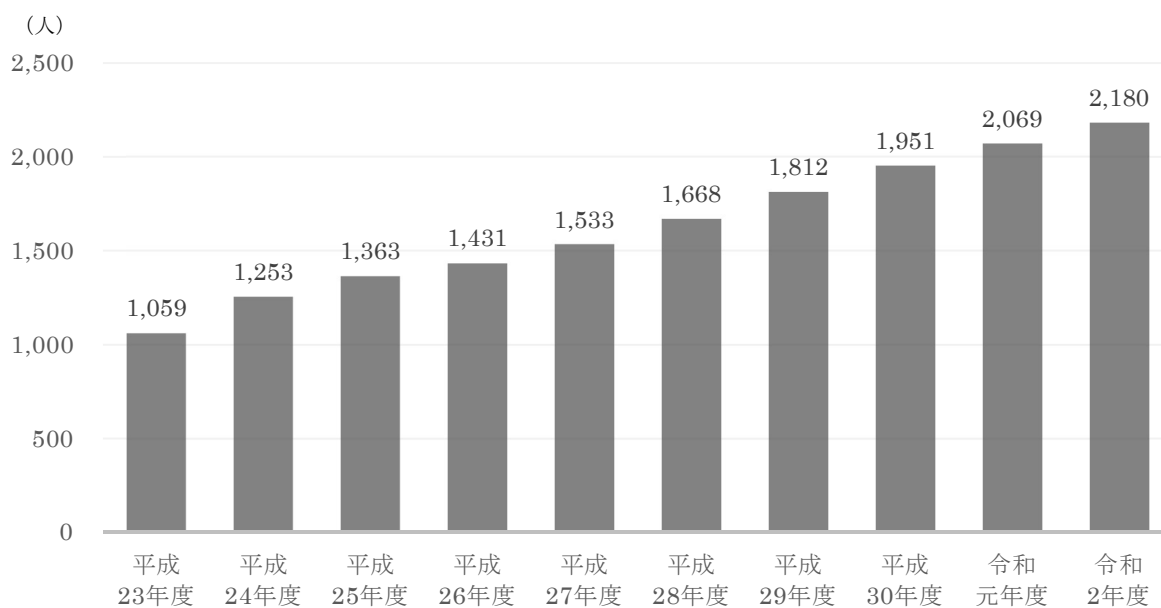
小平市の愛の手帳（療育手帳）の所持者数は、平成 23（2011）年度に 1,120 人であったのが、令和 2（2020）年度には 1,691 人になり、約 1.51 倍の伸びを示しています。



資料：障がい者支援課 ※各年度 3月 31 日現在

（３）精神障がい者の状況

小平市の精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、平成 23（2011）年度に 1,059 人であったのが、令和 2（2020）年度には 2,180 人になり、約 2.06 倍の伸びを示しています。



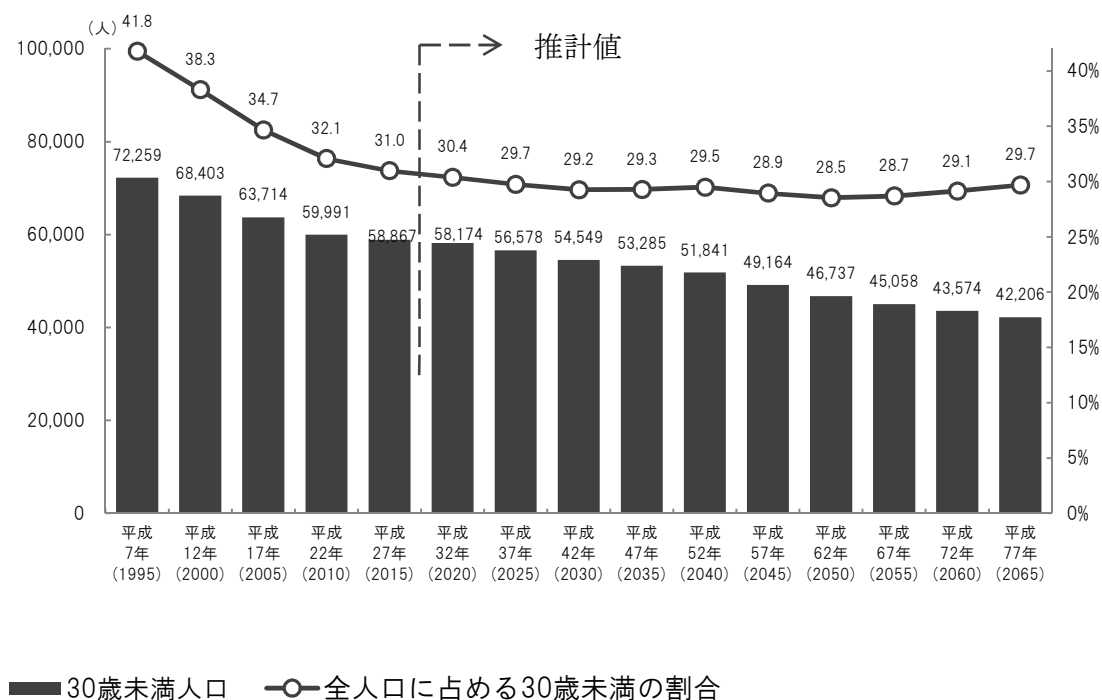
資料：障がい者支援課 ※各年度 3月 31 日現在

4 子どもの状況

(1) 子ども・若者の人口

小平市が行った子ども・若者の将来人口推計によると、子ども・若者の人口は今後も減少を続け、人口に占める子ども・若者の割合は3割前後で推移する見込みです。

子ども・若者の人口推計

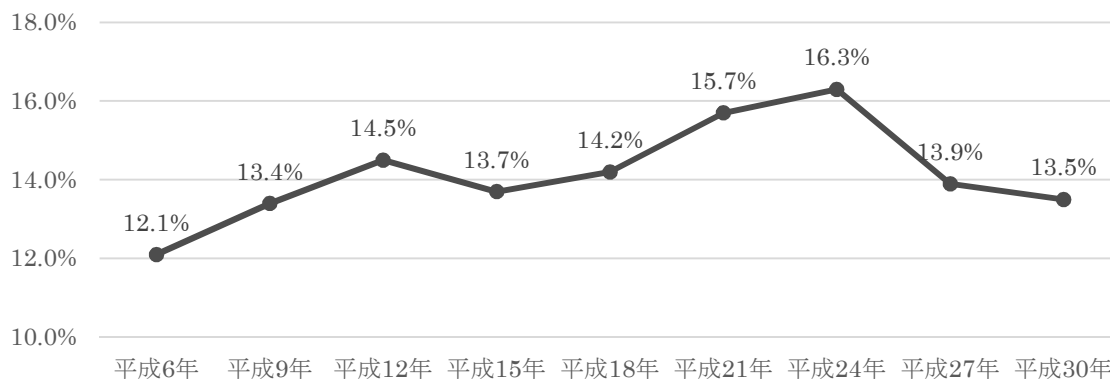


資料：小平市人口推計報告書（平成29年）

（２）子どもの貧困

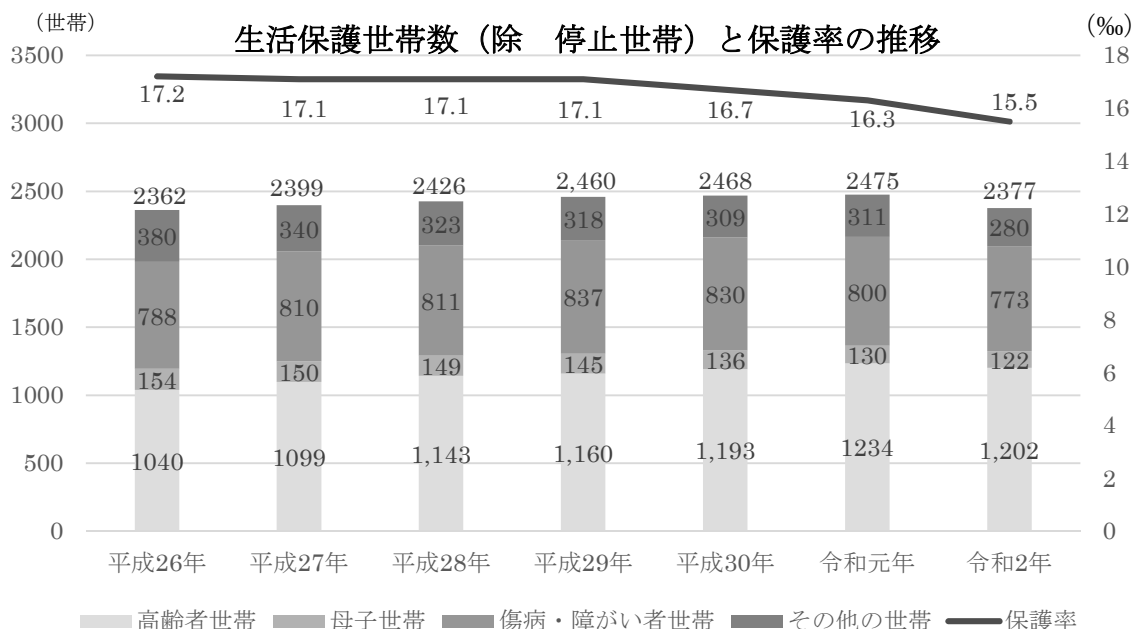
子どもの相対的貧困率は、平成 24（2012）年の 16.3%から平成 27（2015）年に 13.9%、平成 30（2018）年に 13.5%となり、やや改善しましたが、子どもの貧困問題への対応が社会的な課題となっています。

子どもの相対的貧困率（全国）



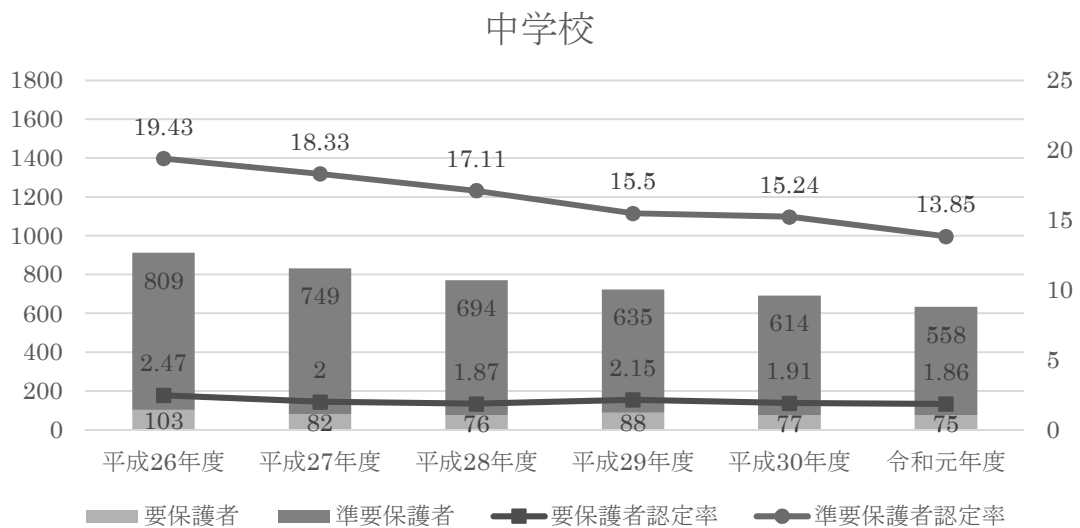
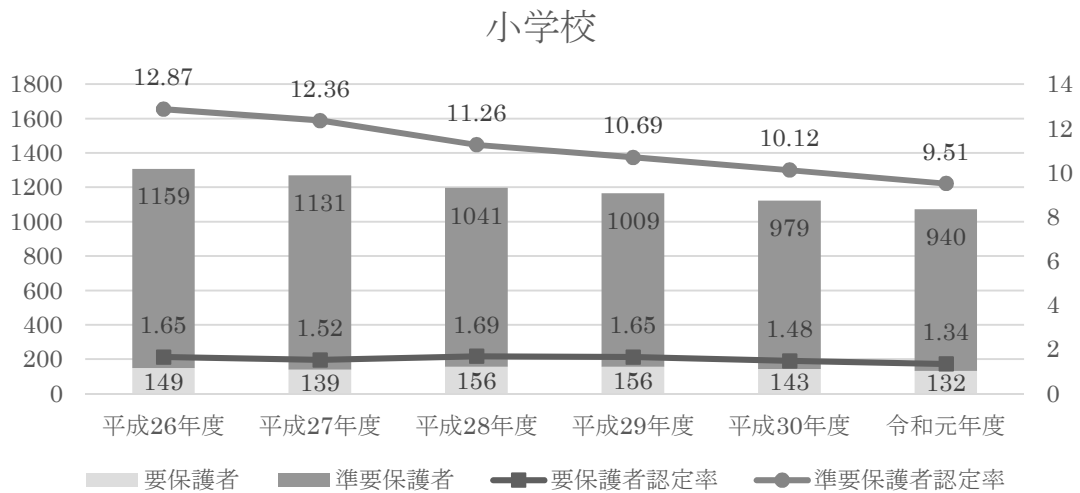
資料：国民生活基礎調査

小平市の貧困の状況を表す参考指標として、生活保護の被保護世帯数及び保護率や就学援助を見ると、生活保護世帯数及び保護率は近年減少していますが、保護の動向は景気等複雑な要因で推移するといわれています。また、就学援助の受給者数は、この数年減少傾向にあります。



資料：生活支援課

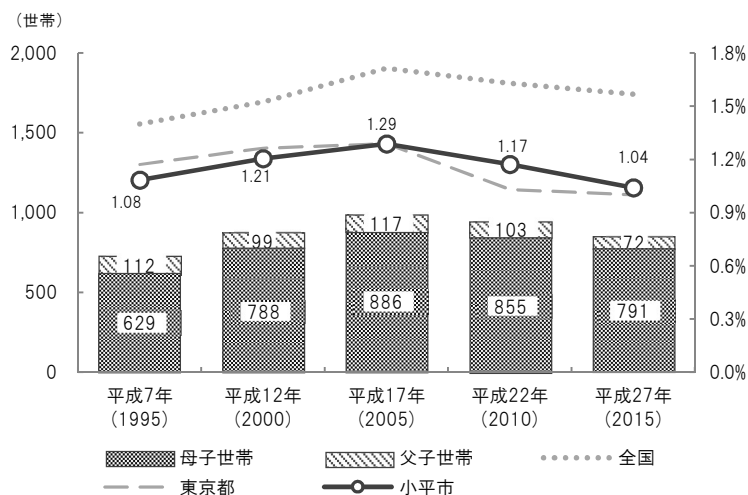
就学援助受給者数・認定率の推移



資料：学務課

ひとり親家庭は、平成 27（2015）年の国勢調査によると、ひとり親世帯数が863 世帯（母子世帯 791 世帯、父子世帯 72 世帯）となり、前回調査時より減少しています。世帯数に占める割合は、東京都とほぼ変わりませんが、全国と比較すると低くなっています。

ひとり親世帯数と全世帯数に占める割合の推移



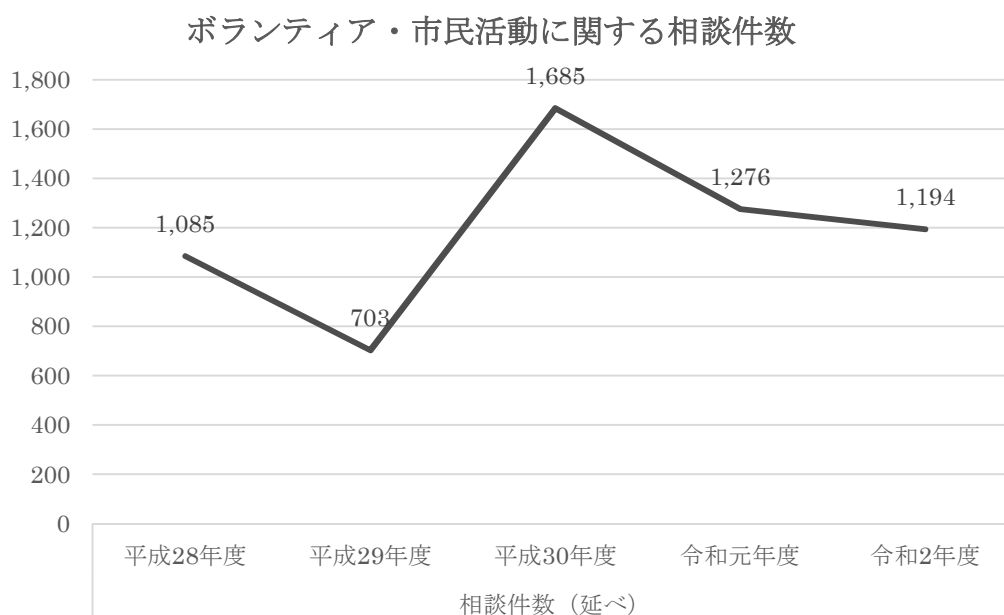
【資料：国勢調査】

5 市民活動の状況

(1) ボランティア活動の状況

市内では福祉の分野をはじめ子ども、防災、国際協力の活動など様々な分野でボランティア活動が展開されています。「こだいらボランティアセンター」には、小平市社会福祉協議会の事業へ協力する個人・団体が登録しています。

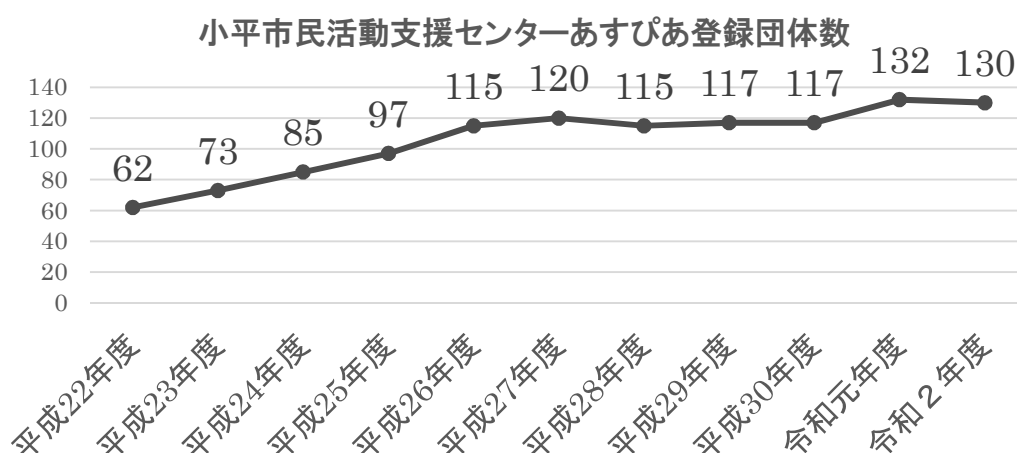
個人：258 人、団体：71 団体 1,678 人（令和3年3月31日現在）



資料：令和2年度事業報告及び決算書（小平市社会福祉協議会）

(2) 市民活動団体の状況

市内には様々な分野で市民が自主的に営利を目的とせず、社会のために活動する民間の組織・団体である市民活動団体が活動しています。

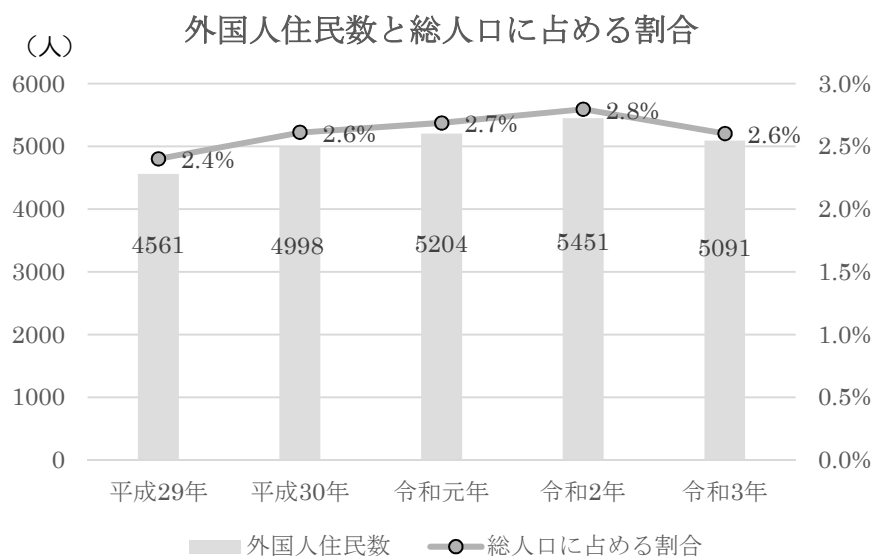


資料：小平市資料

6 外国人住民の状況

(1) 国籍・地域別外国人住民数

外国人住民人口をみると、新型コロナウイルス感染症対策の影響から日本への入国が制限されていることに加え、日本以外の多くの国でも海外渡航制限等の措置が取られていることにより、近年右肩上がりで増加を続けていた外国人住民が減少し、小平市では、令和3年1月1日現在で前年同月比360人減の5,091人、総人口に占める割合は2.6%となっています。また、国籍・地域別に外国人住民人口をみると、中国が最も多く1,977人、次いで韓国・朝鮮が1,470人となっています。



資料：令和2年版小平市統計書（各年1月1日現在）

国籍・地域別外国人住民人口（令和3年）

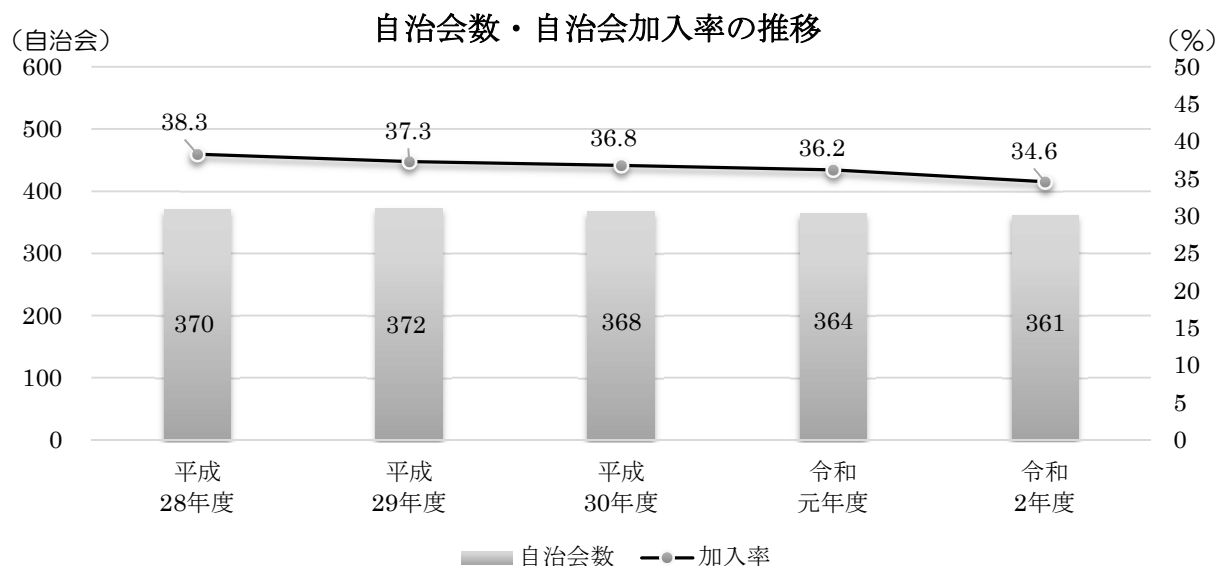
国籍・地域	人数	国籍・地域	人数
韓国・朝鮮	1470	ブラジル	52
中国	1977	タイ	92
米国	109	フィリピン	273
英国	34	その他	1068
オーストラリア	16	合計	5091

資料：令和2年版小平市統計書（各年1月1日現在）

7 その他

(1) 自治会数・自治会加入率

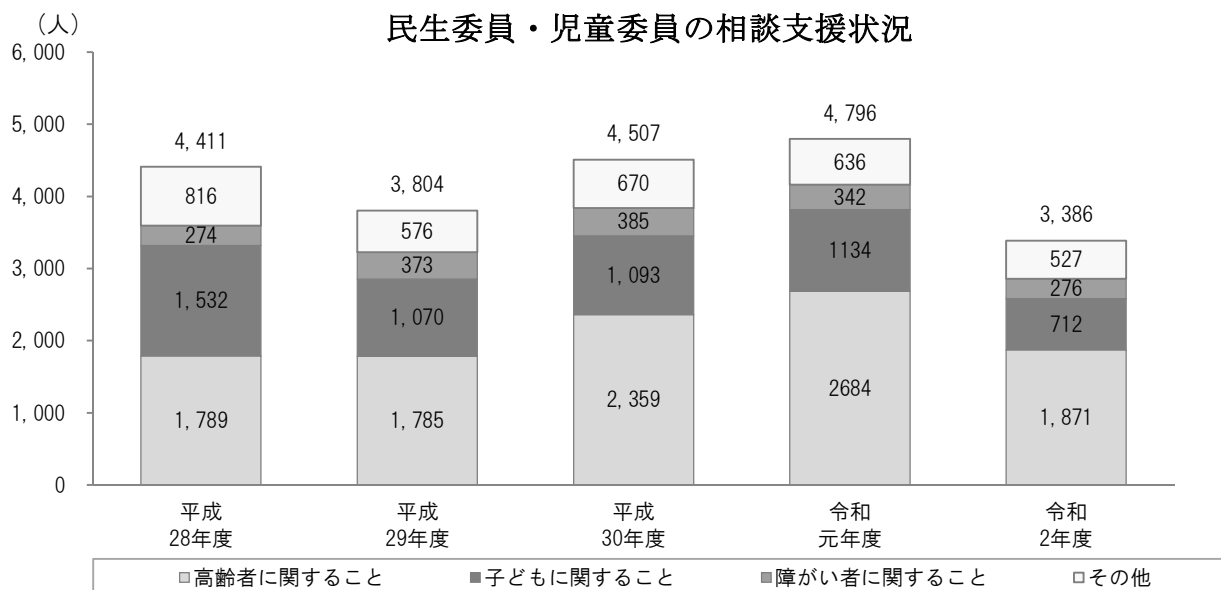
市内には、様々な規模の自治会があり、市内の自治会数は増減がありますが、自治会加入率は年々減少傾向にあり、令和２年度で34.6%となっています。



資料：小平市資料（各年度9月1日現在）

(2) 民生委員・児童委員の活動状況

市内では、118名の民生委員・児童委員が活動しています。（令和３年3月31日時点）相談支援状況は、年により増減がありますが、高齢者に関することや子供に関することが多くなっています。



資料：福祉事業概要